

曹洞禅とその源流研究チーム

代表者	仏教学部	角田泰隆
メンバー	仏教学部	池田練太郎、石井公成、佐藤秀孝、程正、徳野崇行、山口弘江
●5ヶ年の事業内容・目標		
5ヶ年の事業内容・目標		
① 曹洞禅の源流を求めて…曹洞禅に至る禅の流れ 禅系三宗の一つである曹洞宗の大学として出発した駒澤大学。禅の源流は、古くインドに遡る。曹洞禅とその源流研究チームでは、インドの禅が中国に伝播し、中国的に展開し、それが中国宋代に入宋した道元禅師によって日本に伝えられ、瑩山禅師によって全国に広まった、歴史と思想を研究する。 また、これらの研究において重要な歴史的文献や、近現代の主要な著書や論文も紹介する。駒澤大学を中心とした禅学および宗学の研究史を明らかにし、それらの研究を概観できるようにして、本学の学生のみならず、広く内外の研究者や一般の人々にも役立つようにしたい。		
② 坐禅作法の研究 道元禅師が伝来した禅の中心的修行である「坐禅」について、曹洞禅における坐禅の意義を明らかにし、さらにはその作法について、坐禅に関する文献に基づいた研究を行う。		
③ 他チームとの連携 他チームの研究に協力し、また他チームが研究し発信する内容について、曹洞禅の視点による助言を行う。		
●事業計画（2020年4月～2021年3月）		
① 「禅の国際化」シンポジウム 海外から研究者を招聘しシンポジウムの開催を予定。シンポジウムのタイトルとして「禅の国際化」を考えている。		
② 曹洞宗における坐禅作法の研究 全国の曹洞宗僧侶教育施設・僧堂で行われている坐禅の作法を調査する。 2020年度は、長谷寺（港区）、永平寺（福井）、總持寺（横浜市）、皓台寺（長崎）の調査を行う。		
③ 「禅の歴史」出版 連続講義の内容を冊子にまとめる。		
④ 臘八坐禅 摂心の時期に合わせ坐禅会を行う。		
⑤ 「禅の歴史—曹洞禅の源流を尋ねて」（全26回） 順次ウェブサイト公開していく。		
●今後の計画		
これまでの事業における研究成果をまとめ、『禅の歴史—曹洞禅の源流を尋ねて』という冊子を作成し、令和2年度中に公表（刊行）する予定である。坐禅作法の研究については、坐禅作法に関する文献の研究を継続して行い、できればその一部でも研究成果を公表したい。		
●活動報告（2020年4月～2021年3月）		
① 「禅の国際化」シンポジウム 「禅の国際化シンポジウム」の一環として、2020年10月24日（土）に『正法眼蔵』翻訳シンポジウム		

ム」を開催すべく海外の『正法眼蔵』翻訳に関わっている講師 5 人を選定・依頼し、承諾を得て準備を進めたが、コロナ禍により実施が困難となり、同年 6 月中止を決定した。

②曹洞宗における坐禅作法の研究

坐禅作法に関する文献の研究について継続して行った。

③「禅の歴史」出版

連続講座「禅の歴史」の研究報告として、講座の講師を務めた 6 人の講師に講座内容をまとめた原稿を依頼し提出していただいた。提出された原稿は、編集をおこなって 2021 年度中に公開する。

④「臘八坐禅」の開催（※禅ブランディング事業の全体の企画として）

2020 年 12 月 1～4 日、7～8 日の早朝、禅研究館 4 階の坐禅堂での「臘八坐禅」を計画したが、コロナ禍により開催できなかった。しかし、総務部広報課と協力して「せたがや e カレッジ」に坐禅コンテンツ「自宅で会社で坐禅 time」を作成し、「せたがや e カレッジ」および「禅ブランディング」のウェブサイトにて公開することができた。

⑤「禅の歴史—曹洞禅の源流を尋ねて」（全 26 回）の公開

ウェブサイトのスタディーに全 26 回の公開を完結した。

⑥ 源流チームの事業は、仏教学部と密接に関わっているが、事業の進捗状況や計画について、毎回仏教学部教授会において報告を行い、連携体制の構築に努めた。

○自己点検・評価（2020 年 4 月～2021 年 3 月）

①「禅の国際化」シンポジウム

コロナ禍による中止のため、評価の対象としない。

②曹洞宗における坐禅作法の研究

この事業において、全国の曹洞宗僧侶教育施設・僧堂で行われている坐禅の作法の調査については実施することができなかった。この実地調査については取りやめた。坐禅作法の文献の研究については未だ研究成果を公表するに至っていない。

③「禅の歴史」出版

今年度は原稿収集にとどまったが、次年度の発行に向けて準備を進める。

④「臘八坐禅」の開催（※禅ブランディング事業の全体の企画として）

コロナ禍により中止となったことは残念だが、「せたがや e カレッジ」に「自宅で会社で坐禅 time」として坐禅実践編のコンテンツを公開できたことは評価される。

⑤ ウェブサイトのコラムおよびスタディーを利用して、禅の歴史や思想を発信できている。

⑥ 仏教学部教授会において毎回、事業の進捗状況や計画について報告を行い、連携体制の構築に努めることができた。

○将来に向けた発展方策

「禅の歴史」出版

次年度に出版する連続講義をまとめた冊子は、将来的には授業の副読本としても活用できるように内容を充実させていきたい。

禅の受容と展開研究チーム

代表者	仏教学部	飯塚大展
メンバー	仏教学部	奥野光賢、岩永正晴、程正、村松哲文、大澤邦由
	文学部	田中徳定、近衛典子、モート、セーラ
	学内協力者	櫻井陽子、永井政之(本学仏教学部名誉教授・総長)
	学外協力者	堀川貴司(慶応大学斯道文庫教授)

●5ヶ年の事業内容・目標

- ・高度な中国文化である禅が、院政期以降、日本社会においてどのように受容されてきたのかを研究する。
- ・各時代における禅僧の活動、禅宗寺院のありかたを通して、禅が日本社会に及ぼした影響を考察する。
- ・鎌倉時代末から南北朝期に成立した五山、周縁的存在であった林下、その歴史的展開を踏まえ、多様な禅僧の活動に注目する。特に、戦国期以降、日本語による教義問答、その理解に基づく禅の言説に焦点を当て、日本的受容を明らかにする。江戸時代における禅籍の出版、注釈史的研究を行う。
- ・禅の影響を、文学や芸能、美術など、日本文化の中に見出す試みを行う。
- ・コンテンツ作成に特に力を注ぎ、禅語解説(禅僧の言葉、公案など)、禅僧の紹介、頂相・墨蹟の解説などを行い、『新纂禅籍目録』のデータベース作成を通じて、本学の所蔵する禅籍を紹介する。

●事業計画(2020年4月～2021年3月)

① 禅籍抄物データベース作成

禅ブランディング事業及び参加教員による研究成果をデータベース化し、インターネット(オープンアクセス)による外部発信を行い、広く一般の利用に供する。

② 禅フェス(仮称)におけるイベント等

「能狂言」を中心とし、日本の中に受容され展開した禅の諸相を紹介する。イベントの中心は「能狂言」の公演とするが、別会場(もしくは会場内にブースを設置)において、(1)能狂言の解説、演目の中の禅的な要素に関する学術的な解説、(2)芸能・美術の中の禅、(3)体験コーナーなどを企画する。

(1)～(3)については、展開チームが2019年度までに行ってきた研究・イベントを中心にを行い成果発表の意味合いも持たせる。

- ・パネル作成(印刷センター、ハレパネ)、デジタルサイネージでの紹介
- ・講談、梅花(ポップアート等とのコラボ)、美術(ポスターや本学に残すことができる作品を安西氏等へ依頼も)
- ・禅の運んできた文化(茶・香・食事など)を体験できるコーナー、念珠作り、和の印刷文化(摺り体験〈摺り師実演〉、和綴じ本作り〈御朱印帳など〉→御朱印の提供も)、仏像の見方、写仏、写経

③ 永平寺展図録の刊行

禅文化歴史博物館歴史博物館で開催する2020企画展「大永平寺展(仮称)」に禅ブランディング事業として共催し、外部発信のための展示図録の制作を行う。

④ 禅の食事作法を学ぶ会(年度内2回を予定)

禅の食事作法の体験や、精進料理を食することによって、日常の生活を大事にする禅の考え方に親しん

でもらい、駒澤大学への興味を掘り起こす。

●今後の計画

禅籍・抄物データベース維持・管理

禅籍目録データベース・抄物データベース・敦煌文献目録データベースの年間保守を行っていく。

●活動報告（2020年4月～2021年3月）

①禅籍・抄物データベース作成

更新作業は滞りなく進み、禅籍と敦煌文献のデータベースは完了した。抄物については次年度において引き続き更新作業を継続していく。

②禅フェス(仮称)におけるイベント等

コロナ禍にあり、当初の禅フェスの実施は叶わなかったが、代わりに、舞台の様子を動画収録し、WEB上で配信した。再生回数は合計で5万回を超えた。(3月31日で公開終了)

禅フェスのワークショップは実施できなかったものの、展開チームの成果発表展を実施した。

③永平寺展図録の刊行

コロナ禍のため対面での企画展を中止とした。代わりに、WEBでの永平寺収蔵品の画像を紹介予定である。

④禅の食事作法を学ぶ会(年度内2回を予定)

コロナ禍のため中止とした

●自己点検・評価（2020年4月～2021年3月）

① 禅籍・抄物データベース作成

抄物データベースの公開が遅れたことは反省点ではあるが、「禅籍目録電子版」の運用開始は評価される。

② 禅フェス(仮称)におけるイベント等

コロナ禍により禅フェスは中止となったが、講談と能・狂言の実演をYouTubeで動画配信し、再生回数が5万回を超えたことは評価される。また学内者のみの入館ではあったが、成果発表展も好評であった。

③ 永平寺展図録の刊行

永平寺展が中止となり、図録の刊行はできなかったが、展示を予定していた永平寺収蔵品の画像をオンラインで紹介できるよう準備を進めている。

④ 禅の食事作法を学ぶ会(年度内2回を予定)

コロナ禍による中止のため、評価の対象としない。

○将来に向けた発展方策

禅籍抄物データベースについては引き続き更新作業を継続し、次年度に公開する。「禅籍目録電子版」の完成は、これからも広く活用されるものと期待する。

禅による人の体と心研究チーム

代表者	医療健康科学部	名古安伸
メンバー	医療健康科学部	吉川宏起
	文学部	鈴木常元、荒井浩道、久保尚也、小室央允、
	経済学部	松井柳平、江口允崇、村松幹二、矢野浩一、井上智洋、増田幹人、 鈴木伸枝、舘健太郎、西村健
	総合教育研究部	鈴木淳平
	学外協力者	瀬尾育弐(駒澤大学名誉教授)、茅原正(駒澤大学名誉教授)、 谷口泰富(駒澤大学名誉教授)、田中仁秀(曹洞宗総合研究センター)

● 5ヶ年の事業内容・目標

近年、世界的に禅が注目されているようです。これは現代社会が急速に変化することから生ずる「心の問題」にあるのではないのでしょうか。禅の教えに「身心一如」ということばがあります。身体と心は常に一体で、切り離すことはできない。という意味です。私たちは、「坐禅」が人の体と心にどのような効果をもたらすのか、科学的に分析研究を進めています。

「坐禅」を科学的に捉える方法として、①脳波測定や、②磁気共鳴画像(MRI ;Magnetic Resonance Imaging)があります。坐禅による体と心の変化を数値または画像で表すことができないか研究しています。また、③坐禅が人の行動特性に与える影響について、その因果関係を客観的なデータから科学的に検証することを目指します。これら3つの研究を進めることで、現代人が抱えている心の問題を坐禅の観点から、提言することができればと思います。

今、私たちは先行研究の整理と実地調査を行っているところです。坐禅の姿勢と呼吸はどのように関係するのか、科学的データの蓄積と分析を進めているところです。そして、今後さらに「曹洞禅とその源流研究チーム」、「禅の受容と展開研究チーム」と連携して研究を進めていきます。このページではその結果をお伝えしていきたいと思っています。

● 事業計画(2020年4月～2021年3月)

- ① 椅子坐禅の効能の検討
椅子坐禅において、坐禅時と同様の特徴があらわれるのか、坐禅時に得られるリラクゼーションなどの副次的な効能が得られるかどうかを検証する。
- ② 坐禅時の f-MRI による脳機能解析研究
坐禅時の脳活動の変化をファンクショナル MRI 法を用いて解析する。
- ③ 禅の影響についてのランダム化比較実験による統計的研究
ランダム化比較実験により、禅の影響についての統計的研究を行う。
- ④ 禅フェス(仮称)での報告会またはパネル展示の開催
これまでの検証結果をまとめ、禅フェス(仮称)の時期に合わせ、報告会またはパネル展示で成果報告を行う。

●今後の計画

椅子坐禅の効能の検討

椅子坐禅の効能の検証。実験が1回目のみで中断したため、再度協力者を募り、検証を進める。

●活動報告（2020年4月～2021年3月）

① 椅子坐禅の効能の検討

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、対面での実験実施は困難であると判断し、昨年度より継続していた実験は中断、今年度からの新規の実験は実施を延期した。また、オンラインでの実施も検討したが、実験の特質上、実施は困難であると判断し断念した。そのため、今年度は実験再開に向けての準備と文献研究を行った。

② 坐禅時の f-MRI による脳機能解析研究

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず活動を自粛せざるを得なかった。

③ 禅の影響についてのランダム化比較実験による統計的研究

新型コロナウイルスの感染防止を考慮して、前回の実験を補完・拡張するための追加実験が実施できない状況となった。

④ 禅フェス(仮称)での報告会またはパネル展示の開催

コロナ禍により禅フェスが中止となったため、実施出来ず。

○自己点検・評価（2020年4月～2021年3月）

① 椅子坐禅の効能の検討

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、実験を中断・延期したため、当初の計画をほとんど進めることができなかった。そのため、研究、成果ともに不十分であると言える。

② 坐禅時の f-MRI による脳機能解析研究

新型コロナウイルス感染症の影響により、実験はじめ活動そのものが出来なかった。ウェブ上の活動も考慮すべきところではあったが、想定外の事態には対応しきれなかった。

③ 禅の影響についてのランダム化比較実験による統計的研究

今年度は、2019年に試行的におこなった小規模なランダム化比較実験において得られた経験から、今後の実験について坐禅の効果を測定する行動特性についての再検討、手続きや手順の見直し等の課題の検討をおこなってきたが、新型コロナウイルスの感染防止を考慮して、前回の実験を補完・拡張するための追加実験が実施できない状況となった。

④ 禅フェス(仮称)での報告会またはパネル展示の開催

禅フェスそのものが中止となったため、評価の対象としない。

○将来に向けた発展方策

継続可能な研究については、可能な範囲で進めていきたい。

禅の影響についてのランダム化比較実験による統計的研究については、今後、研究資金に恵まれる機会があれば、2018年度に試行的におこなった小規模なランダム化比較実験において得られた経験を踏まえ、より大規模な実験が可能となると思われる。

禅と現代社会研究チーム

代表者	経営学部	青木茂樹
メンバー	仏教学部	飯塚大展
	文学部	
	経済学部	長山宗広
	経営学部	小野瀬拓、兼村栄哲、菅野沙織、中野香織、中村公一、若山大樹
	GMS	各務洋子、山口浩
	法科大学院	日笠完治
	学外協力者	廣瀬良弘、久保田昌希

●5ヶ年の事業内容・目標

禅(ZEN)と社会制度の研究 においては、今日的な禅の世界的な流行、およびその応用として企業や医療、健康などの分野に広く広まっていることについて、各々の専門分野の関心から紐解くことを目途としている。そのためには、(1)中世の日本において、禅(ZEN)が当時の社会や戦国大名等に受容された経緯を明らかにすること、(2)現代の社会制度に求められる経営理念や経営者の意識、ダイバーシティ、サステナビリティ等の思想やその実践に、禅(ZEN)がどのように活かされるかを検討すること、(3)禅(ZEN)の観点から、現代人が抱えている心や社会制度の問題に提言をすることに関わる研究を個々人が進める。

●事業計画(2020年4月～2021年3月)

① 禅ブランディング出版事業

「禅と現代社会研究」の事業を通して蓄積してきた研究成果を幅広く公表することが重要と考え、初学者(特に大学生)でも興味を持つような禅と社会制度に関する多様なトピックを掲載した冊子(エッセイ集)の刊行・配布を予定している。

② 禅をベースとしたアーティストと学生のコラボイベント

禅ブランディング事業において、そのターゲットは学生としながらも、これまでのイベントへの参加状況を鑑みると、必ずしも芳しい成果を挙げているとは思えない。ここで、大きく彼らへのアプローチを変えて、本学に關係の深いアーティストにプロデュースを依頼し、禅の本質を理解しながらも音楽などの創作物で学生を巻き込み、作品を仕上げていくことを企画、実行する。

仏教音楽はこれまでも檀信徒獲得のための重要な手段であり、楽器も多様である。これを現代の楽器を組み合わせながら、現代的な楽曲などを試みる。最終年度の発表会には、学生の音楽サークルやダンスサークルとの共演をすることで、禅ブランディング事業の集大成を盛り上げたい。

③ 宗勢調査

全国 14,600 寺の曹洞宗寺院のデータを分析し、現状の経営課題を明らかにする。

④ ZEN2.0 への参加

ZEN2.0 に参加し、禅そのものの理解に加え、いかに企業で取り入れているのか、また他分野がどのように禅を捉えているのかを学び、コラムとして発信する。

⑤ 学際的研究会

ゲストスピーカーを招き、現代社会チームメンバーで研究発表会を行う。成果を WEB サイトで発信する。

●今後の計画

禅をベースとした学生とのコラボイベント

集客型のイベント開催が難しい状況となったため、新たな学生参加型の企画で駒澤大学の禅ブランドを発信する。

●活動報告（2020年4月～2021年3月）

① 禅ブランディング出版事業

『禅から現代社会を考える一禅を初めて学ぶ人のためにー』を1000部印刷済みにて完了した。

② 禅をベースとしたアーティストと学生のコラボイベント

実施に向けて協議し、様々なプランを試行したが、実施には至らなかった。2021年度にZEN FES 駒大エールとして実施計画を提示した。

③ 宗勢調査

宗務庁とのやり取りをしたが原データ入手が難しいと判断。ただしデータ分析の可能性については、『禅から現代社会を考える一禅を初めて学ぶ人のためにー』の中に「曹洞宗実態把握の試み」として若山大樹先生が執筆した。

④ ZEN2.0への参加

ZEN 2.0に参加し、禅とサステナビリティの動向を理解した。禅ブランディングのウェブサイトに執筆予定。

⑤ 学際的研究会（年度内3回を予定）

企画したものの、コロナ禍のため実施不可となった。ZEN FESの中でオンラインでのゲスト講演や対談を実施する。

○自己点検・評価（2020年4月～2021年3月）

① 禅ブランディング出版事業

予定通り出版できたことは評価できる。本の活用方法については更なる検討が必要。

② 禅をベースとしたアーティストと学生のコラボイベント

コロナ禍により対面での実施が出来なかったのは残念だが、次年度の実施に向けてオンライン開催に切り替えた企画書の作成や内規の整備を行った。

③ 宗勢調査

交渉はしたものの、調査を実施できなかったことは反省点である。

④ ZEN2.0への参加

オンラインでの参加が出来たが、報告書の作成が進んでいない。

⑤ 学際的研究会（年度内3回を予定）

コロナ禍による中止のため、評価対象としない。

○将来に向けた発展方策

2021年度にオンラインで開催することになったZENFESの企画を通じ、禅の精神を楽しみながら学び、在校生に本学が禅と深く関わる大学であると認識してもらい、禅ブランドの周知につなげたい。

禅ブランディング発信事業チーム

代表者	GMS 学部	各務洋子
メンバー	経営学部	青木茂樹、中野香織、中村公一
●5ヶ年の事業内容・目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 禅（ZEN）の情報について、ウェブコンテンツを制作し、国内外に向けて発信する。 2. 禅の（ZEN）の無関心層に向けて、ウェブサイトへ導く企画を実施し、また社会へ貢献する。 3. 駒澤大学を拠点とした寺院との連携機能（ハブ&スポーク）を構築し、本事業の研究成果を各寺院で活かす環境を整備する。 4. 2020年の東京オリンピック開催を契機とし、禅（ZEN）を国内外に発信する。 5. 4チームの研究成果の発信をサポートし、大学全体の禅（ZEN）研究ブランドを確立する。 		
●事業計画（2020年4月～2021年3月）		
<ol style="list-style-type: none"> ① 対談企画 禅・仏教の研究者と異分野の著名人との対談を行い、動画と記事をウェブサイト等で発信していく。 ② ウェブサイトの多言語化 禅ブランディング事業は、タイプB(世界発信型)に選定されているため、ウェブサイトに掲載中の研究成果やコラム等を多言語で発信する。 ③ 禅フェス（仮称）の記録映像作成 5年間の研究成果の発表として行われる「禅フェス（仮称）」の記録だけではなく、今後、大学紹介に使えるような映像を作成する。 		
●今後の計画		
<p>ウェブサイトの多言語化（2021年度は英訳） ウェブサイトに掲出したコラム等の英訳。</p>		
●活動報告（2020年4月～2021年3月）		
<ol style="list-style-type: none"> ① 対談企画のウェブ掲載 第5回対談企画「ZEN, KOMAZAWA, MANAGEMENT」のウェブ掲載に向け、編集・確認作業を重ね2020年8月7日に完了した。 ② ウェブサイトの多言語化 翻訳する研究成果やコラムの選定を進めると共に、取引業者の見積をとるに留まった。 ③ 禅フェス（仮称）の記録映像作成・アセット動画の作成 コロナ禍の影響を受け、禅フェスの開催は中止となったが、展開チーム主催の10/16講談、11/23能楽の舞台収録を行った。収録した動画は編集作業を経て、期間限定で大学公式Youtubeにて公開し、禅ブランディングウェブサイトにも掲載した。また、禅フェスの記録映像の代わりに、禅ブランディング事業5年間の活動を記録したアセット動画を作成した。Long ver、Short ver、English ver3種類の動画を作成。 		

○自己点検・評価 (2020年4月～2021年3月)

① 対談企画のウェブ掲載

5本目の対談の掲載が終了し、この企画については無事完了できた。

② ウェブサイトの多言語化

今年度は業者選定にとどまったことは反省点であるが、次年度は英訳を掲載していく。

③ 禅フェス（仮称）の記録映像・アセット動画の作成

コロナ禍により禅フェスが開催できなかったことは残念だが、代わりに5年間の活動記録を動画に残したことは評価される。

○将来に向けた発展方策

次年度は、ウェブサイトに掲載中の研究成果やコラムの英訳を進め、世界に向けて発信していく。

禅ブランディング事業5年間の活動を記録したアセット動画は、2016年から実施した対談やイベント等を振り返りながら、多様な専門領域と禅を融合した活動・研究が大学の禅ブランドとしてこれからもつながっていくことをコンセプトとした動画となった。

事務部門

代表者	教育・研究担当副学長	日笠完治
関係部署	禅文化歴史博物館、総務部広報課	
●5ヶ年の事業内容・目標		
<p>① 4 研究チームのサポート・5 チームリーダー連絡会の運営（禅文化歴史博物館） 「曹洞禅とその源流研究チーム」「禅の受容と展開研究チーム」「禅による人の体と心研究チーム」「禅と現代社会研究チーム」それぞれの活動の事務的側面を担う。定期的開催されるチームリーダー連絡会を円滑に運営する。チーム合同で実施する計画の際には、広報活動などの支援も行なう。</p> <p>② 禅ブランディング発信チームのサポート（禅文化歴史博物館） 禅ブランディング発信チームの活動の事務的側面を担う。禅ブランディング専用ウェブサイト等の運営等における(株)電通との調整等を事務的側面からサポートする。</p> <p>③ 大学ホームページへのニュースリリース、プレス対応（総務部広報課） 上記①②などの情報を、大学 HP へのリンクや記事の更新、学外からの問い合わせ対応を行う。</p> <p>④ 禅ブランディングプロジェクト・チーム会議の運営（禅文化歴史博物館） 教育・研究担当副学長をプロジェクトリーダーとする PT 会議の運営を行う。併せて、審議内容の学内調整や各チームを横断する事項など、必要に応じて対応する。</p> <p>⑤ 禅ブランディング自己点検・評価、及び外部評価（禅文化歴史博物館） 前年度自己点検・評価結果の外部評価を受けるとともに、今年度の自己点検・評価、及び外部評価を行う。</p> <p>⑥ 禅センター(仮称)の設置準備（禅文化歴史博物館、ほか学内関係部局・学部等） 2018 年 4 月を目指し、禅センター(仮称)の設置準備に着手する。関係する事務部門、学部等を含めた設置準備委員会(仮称)を設置して各種検討を行い、その後の学内手続きや施設・設備の整備を実施する。</p>		
●事業計画(2020 年 4 月～2021 年 3 月)		
<p>① 各研究チームの事務的支援、及びチームリーダー連絡会の運営を随時行う。また、今年度に計画されている各チームのイベント及びチーム全体で取り組む「禅フェス」の開催に向けて運営支援を行う。</p> <p>② (株)電通との基本契約に基づき、個別契約・注文書に係る手続きを行う。禅ブランディング事業ウェブサイトへの記事の投稿作業については、学内手続きを踏まえ、随時更新していく。今年度、発信チームで計画されている「対談企画」について事務的支援を行う。</p> <p>③ 大学 HP との連動や、プレスセンターへのリリースを通じ、広報活動を進める。</p> <p>④ 関係各所と調整し、会議の運営事務を行う。親委員会である研究活動推進委員会との調整を行う。</p> <p>⑤ 自己点検・評価報告書を 4 月上旬までに作成し、4 月から 5 月初旬にかけて外部評価委員に評価いただく。いただいた評価は自己点検・評価委員会で報告を行い、禅ブランディングプロジェクト・チーム会議、及び研究活動推進委員会の報告を経て、5 月末までに大学 HP で公開する。</p> <p>⑥ 禅センター(仮称)の設置については、事務部門だけでは進められない案件であり、学長の方針を伺いながら、設置準備の事務支援を行う。</p>		
●今後の計画		
<p>禅ブランディング事業そのものは 2020 年度で終了となるが、5 年間の成果が 2021 年度以降に繋がる方策を検討していく。</p>		
●活動報告 (2020 年 4 月～2021 年 3 月)		
<p>① 2020 年度のイベントはコロナ禍により多くが中止となったが、10/16 講談、11/23 能楽へのいざないを少人数で開</p>		

催し、運営支援を行った。また、このイベントを動画収録し、ウェブ上で3月31日まで限定公開を行った。

- ② 発信チーム「対談企画」に際し、収録～掲載までの事務支援を行った。また禅ブランディングウェブサイトへの掲載手続きや、インスタグラム発信までの事務支援を行った。

○禅ブランディングウェブサイト「ZEN,KOMAZAWA,1592」(<https://zen-branding.komazawa-u.ac.jp/>)

総PV数(2020年4月1日～2021年3月31日):26134回

掲載数:コラム2本、研究成果17本、SPECIAL1本、ニュース5本 計25本

○インスタグラム投稿数(2020年4月1日～2021年3月31日): 26件

- ③ 2020年度開催の各イベントは、大学HPへ掲載し、大学プレスセンターへのニュースリリースも行った。せたがやeカレッジには「自宅で会社で坐禅タイム」の掲載を行った。

○大学HP内禅ブランディング特設ページ(<https://www.komazawa-u.ac.jp/zen-branding/>)

総PV数(2020年4月1日～2021年3月31日):5312回

- ④ 禅ブランディングプロジェクト・チーム会議(5月22日、10月9日、11月13日開催)、チームリーダー連絡会(計13回)に際し、資料・議事録を作成し、事務的支援を行った。研究活動推進委員会(5月28日、11月23日開催) ※教務部所管のため禅ブランディング関連の議題があった回を記載)へ議題を上程し、資料作成を行った。

- ⑤ 2019年度分の自己点検・評価を、外部評価委員会(5月15日開催)にて評価を受け、文部科学省への報告を行った。

- ⑥ 禅センター(仮称)設置については、11月23日開催の研究活動推進委員会において開設しないことが表明された。

禅ブランディング事業予算は禅文化歴史博物館予算に計上され、2020年度は予算額4,132万円、決算額2,379万円、執行率は約57.6%であった。予算の執行については、コロナ禍の影響で事業計画を変更する対応もあったが、適切に執行することができた。

○自己点検・評価 (2020年4月～2021年3月)

- ① 2020年度のイベント、10/16講談、11/23能楽は、入場制限のうえ運営開催することができた。また、当日の様子は、動画収録し収録編集を行いウェブ上での公開を行った。

- ② 2017年度末に開設された禅ブランディングウェブサイト「ZEN,KOMAZAWA,1592」は、禅ブランディング推進係でニュース、コラム、研究成果等の掲載手続きを行った。インスタグラムは、2020年3月上旬にはフォロワー数が400人を超えたが、投稿数が少なく、コンテンツを増やしていくことが今後の課題である。

対談企画は、2019年度末に収録した「ZEN×MANAGEMENT」を今年度ウェブサイトに掲載した。課題となっていた掲載までの校正や画像のチェック作業の負担は、(株)電通と作業方法の見直しを行い、ある程度は改善された。

- ③ 総務部広報課により、大学HPへの掲載、プレスセンターへのニュースリリース、関連媒体への記事の掲載を行うことができた。

- ④・⑤については、禅ブランディングプロジェクト・チーム会議や、定期的なチームリーダー連絡会のすべてがオンライン会議となったが、滞りなく運営サポートができた。2019年度の進捗状況、自己点検・評価結果等に関する情報も大学HPにて遺漏なく公開できた。

- ⑥ 禅センター(仮称)の設置については、各会議用に資料の作成を行った。

○将来に向けた発展方策

本学は2016～2020年度までの5年間で事業計画を策定しており、2020年度で区切りとなるが、コロナ禍で中断している一部の事業を2021年度に実施する予定である。これまでの事業をまとめたアセット動画を作成したので、ステークホルダーへの周知に努めたい。禅センターの設置は叶わなかったが、禅文化歴史博物館を中心に、事業成果の活用や、研究成果の広報の部分で、事務的支援をしていく。

総 括

● 5ヶ年の事業内容・目標

現代社会が直面している「心の問題」に、禅（ZEN）の立場から提言を試みる。禅研究の最先端に位置すると自負する本学が、江戸時代以来の研究の蓄積を踏まえ、1. 現代人の心の問題に新たな提言を試みるため、2. 多様な専門領域と禅（ZEN）を融合した研究を行い、3. 坐禅の身心への影響を科学的に検証し、4. 全学的な機関を設置して、研究成果を国内外に向けて発信する。

● 事業計画（2020年4月～2021年3月当初計画）

2020年度は、引き続き学外の連携機関と交流を深めつつ、本格的な調査研究を実施する。また、禅ブランディングウェブサイトの充実を図り、学生や社会への広報活動を行う。

● 今後の計画

禅ブランディング事業は2020年度が集大成となるので、多方面から研究成果を公開し、その記録を今後も活用していく。また、これまでウェブサイトに掲載してきたコラム等の英訳をすすめ、本事業の研究成果を全世界に発信する。また研究成果を出版物として刊行する。

● 活動報告（2020年4月～2021年3月）

- ① 研究4チーム（曹洞禅とその源流研究チーム〈以下、「源流チーム」という。〉・禅の受容と展開研究チーム〈以下、「展開チーム」という。〉・禅による人の体と心研究チーム〈以下、「身心チーム」という。〉・禅と現代社会研究チーム〈以下、「現代社会チーム」という。〉）は、研究活動を進め、その成果をシンポジウムや禅フェスティバルとして発表する予定であったが、集客型のイベントの多くが中止となり、一部を動画撮影の配信に切り替える対応となった（10/16 講談、11/23 能楽へのいざない）。現代社会チームでは冊子を発刊した。
- ② 禅ブランディング発信事業チーム（以下、「発信チーム」という。）により禅ブランディング事業ウェブサイトにコンテンツ 25 件を掲載し、インスタグラムに 26 件の投稿を行った。昨年度収録分 1 件の対談をウェブサイトに公開した。また、これまでの事業をまとめたアセット動画を作成した。
[\(https://zen-branding.komazawa-u.ac.jp/contents/1018/\)](https://zen-branding.komazawa-u.ac.jp/contents/1018/)
12 月にはトートバックを専任教職員全員に配布し、禅ブランディング事業の広報に活用していただくよう依頼した。
- ③ 禅ブランディング推進係において、禅ブランディング事業全体に関わる予算編成及び執行を始めとした事務運営を行った。
また、禅ブランディングプロジェクトチーム会議 3 回、チームリーダー連絡会 13 回、自己点検・評価委員会 1 回を行った。発信事業の事務支援として、ウェブサイト、インスタグラム運営、サーバー管理等を行った。

● 自己点検・評価（2020年4月～2021年3月）

- ① 2020年度は、コロナ禍による事業計画の変更を余儀なくされ、手探りで進めていくような状況であった。今後も集客型のイベント開催は難しい状況にあるため、オンラインを活用した方法への転換が必要であると感じた。禅ブランディング事業は2020年度で終了するものの、コロナ禍により中断している一部の事業を2021年度に実施することとなった。
- ② インスタグラムは、2021年3月上旬にはフォロワー数が400人を超えたが、投稿数は1年間で26件にとどまった。もう少し気軽に掲載できるような投稿内容も検討していきたい。今後はウェブサイト、イン

スタグラム共に活用方法を検討していきたい。

- ③ 2020年度はすべての会議・委員会がオンラインでの開催となったが、定期的にチームリーダー連絡会を開催し、研究チーム間の情報共有を図ることができた。禅ブランディングプロジェクトチーム会議や、研究活動推進委員会を通じ、当事業の今後の方向性を協議し、学内で理解が得られるよう努めた。

● 将来に向けた発展方策

5年間の研究活動をまとめた報告書を作成し、今後の資料とする。事業をまとめたアセット動画を活用した広報活動を行い、メインターゲットである在校生、受験生をはじめとする社会一般の興味・関心を高めていく。

禅センター(仮称)の設置については検討を重ねてきたが、開設が見送られたため、禅文化歴史博物館を中心に禅文化の広報を担っていきたい。特に学内(在校生・教職員)に向けては、当事業の意義を理解してもらい、禅ブランドを高める取り組みを行っていきたい。